

# **履修の手引き**

**看護学部**

**看護学科**

## 1 看護学部看護学科の教育目的・教育課程

### (1) 看護学部看護学科の教育目的

本学は、「仁心妙術」と「徳風四海に洽(あまね)く」を教育理念に掲げ、人を慈しむ豊かな人間性と保健・医療・福祉に関する高い知識と技能を備え、学生が会得する知識や技能をすべからず人類愛に基づき世界(四海)に広める気概を持って社会に貢献することとしています。

本学看護学部では、「地域で学び、地域を学ぶ」及び「地域で育ち、地域が育つ」を学びの特徴として、地域の多様なニーズに対応できる質の高い看護を修得し、探求心を持って、生涯にわたって自律的に自己研鑽する看護職の育成を教育上の目的とします。

### (2) 教育目標

本学看護学部では、多様化する保健医療福祉の分野で、地域の生活基盤を支える質の高い専門職業人材としての看護職者、健康寿命の延伸、地域包括ケアシステム整備に寄与する専門職としての看護職者、多職種連携チームの中核としての看護職者の育成を目指し、次のような人材を育成します。

- ア 善き社会人として必要な教養知識を備える
- イ 生命の尊厳や人権を守り、多様な価値観を尊重して行動できる
- ウ 専門知識・技術を基盤とし、看護実践能力を修得している
- エ 保健医療福祉チームの一員として、連携・協働する能力を持つ
- オ 自律的に自己研鑽に努める

### (3) 到達目標(卒業認定・学位授与方針：ディプロマポリシー)

- ア 基礎知識を用いて論理的に分析・判断し、的確に表現する能力を有する
- イ 生命への畏敬の念、人間尊重の態度を有する
- ウ 人間・健康・社会の関係を広い視野から体系的に理解し、地域を知り、専門知識・技術を基盤とした看護実践能力を有する
- エ 保健医療福祉に関わるチームの一員として、多職種と連携・協力できる能力を有する
- オ 生涯にわたり専門性を高め、継続的に看護学を探究する力を有する

### (4) -1 教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)【2023年度～2025年度入学生】

- ア 基礎となる知識や幅広い教養を身につける  
教養科目に、人文科学、社会科学、自然科学、体育学の各科目を配置し、専門基礎科目に「健康科学概論」、「保健医療福祉行政論」を配置しています。
- イ 論理的な思考や判断、的確な表現能力を身につける  
導入科目に「大学基礎セミナーⅠ」、人文科学に「大学基礎セミナーⅡ(国語)」、自然科学に「大学基礎セミナーⅢ(情報)」を配置し、加えて外国語科目を配置しています。
- ウ 医療従事者を志すものとして、高い倫理観を身につける  
教養科目の人文科学に「倫理学」、「心理学」、「哲学」を、社会科学に「日本国憲法・法学」を配置し、専門基礎科目に「生命倫理」、「臨床心理学」を配置しています。
- エ 多様性や個性を尊重する態度を身につける  
導入科目に「大学基礎セミナーⅠ」を、教養科目の人文科学に「文化人類学」を配置し、専門科目の臨地実習に「早期体験実習」を配置しています。
- オ 人間・健康・社会の関係を広い視野から体系的に身につける

教養科目の人文科学に「人間関係論」、社会科学に「教育学」、自然科学に「加齢の科学」を配置し、専門基礎科目の環境と健康に「健康科学概論」、「保健医療福祉行政論」を配置しています。

カ 専門知識と技術に基づく看護実践能力を身につける

モデル・コア・カリキュラムを参照し、専門基礎科目、専門科目、臨地実習を構成しています。

キ 地域の課題に積極的に関わり地域に貢献する職業人としての意識を身につける

教養科目の人文科学に「信州学」、自然科学に「ヒトと自然の共生」を配置し、専門科目の臨床実習に「領域別実習」、「統合実習Ⅱ」を配置しています。

ク 多様な場における多職種連携チームの一員となる力を身につける

専門科目に「I P W論」、「I P W方法論」(I P E 関連科目)、「統合実習Ⅰ (管理実習)」、「統合実習Ⅱ (地域包括ケア)」、「災害看護学」、「国際看護学」を配置しています。さらに、多様な場における多職種連携チームの一員になる力を育てるため、保健科学部との合同によるI P Eに関連する科目を1~3年次に配置し、4年次の「統合実習Ⅰ (管理実習)・Ⅱ (地域包括ケア)」により現場における連携について学修します。

ケ 看護研究能力を身につける

専門科目に、「看護研究法」、「看護課題探求Ⅰ」、「看護課題探求Ⅱ」、「看護の専門と発展」を配置しています。

コ 自律的な学習能力を身につける

全ての科目に共通します。また、外国語科目に関しては、1~4年次にわたり「英語Ⅰ (読む・書く)」、「英語Ⅱ (聞く・話す)」、「英語Ⅲ」、「医学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置しています。

#### (4) -2 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラムポリシー) 【2026年度以降入学生】

ア 基礎知識と教養、論理的思考と表現力、高い倫理観、多様性・個性の尊重を育む科目として、教養科目の「大学基礎セミナー」、「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」、「外国語」、「体育学」に関連する科目を配置しています。外国語科目に関しては、1~3年次にわたり「英語Ⅰ・Ⅱ」、「医学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を体系的に配置しています。また、健康科学と社会保障制度に関連した科目として、専門基礎科目に「保健統計学Ⅰ・Ⅱ」「看護倫理学」、「生命倫理」を配置しています。

イ 体系的学修、専門的実践能力、地域とのかかわりを育む科目として、教養科目の人文科学に「心理学」、「文化人類学」、「信州学」、「音楽」を、自然科学に「ヒトと自然の共生」、「加齢の科学」、「生化学」を配置しています。また、「人体の構造と機能」に関連した科目として、1年次に「形態機能学Ⅰ・Ⅱ」「代謝栄養学」を、「疾病の成り立ちと回復の促進」に関連した科目として「微生物・感染症」、「病理・病態生理学」、2年次に「薬理学」、「病態・疾病治療論Ⅰ~Ⅴ」、「臨床心理学」を配置しています。また、「健康科学と社会保障制度」に関連した科目として「保健医療福祉行政論」、「社会福祉学」等の専門基礎科目を、専門的実践能力を育む科目として、各領域の専門科目、臨地実習を構成しています。

ウ 多職種連携能力、看護研究能力、自律的学習能力を有する、を育む科目として教養科目に「アカデミックリテラシー」、「情報リテラシー」「哲学」を、看護の統合と実践に関わる科目として、「看護研究法」、「看護教育論」、「看護課題探求」を配置しています。さらに、多様な場における多職種連携チームの一員になる力を育てるため、I P Eに関連する科目として「健康科学概論」「I P W論」、「リハビリテーション概論」、「I P W演習」

ほか、4年次の「統合実習」、「公衆衛生看護学方法論Ⅱ」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」により現場における連携について学修します。

エ 上記のすべての能力に関連する統合的な科目として、4年次に「災害看護学」、「エンドオブライフ・ケア」、「国際看護学」、「看護提供システム論」、「公衆衛生看護管理論」を設置しています。

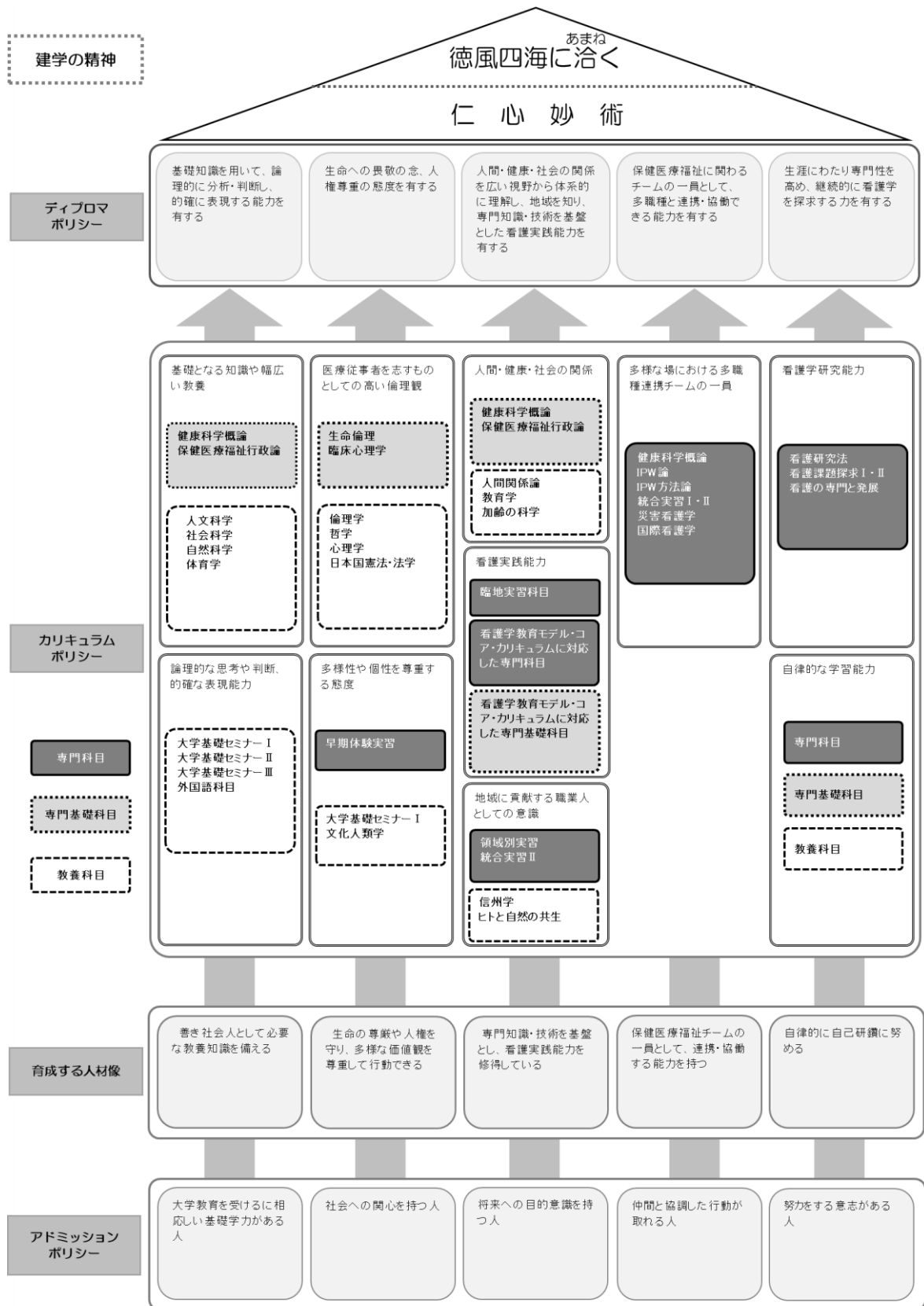
#### (5) 卒業時に取得できる資格

本学看護学部においては、必要な単位を取得し卒業を認められた学生に、「看護師国家試験受験資格」と「社会福祉主事任用資格」が与えられます。

また、保健師課程を修了した学生に「保健師国家試験受験資格」と「社会福祉主事任用資格」が与えられます。なお、保健師資格取得者は、申請により第一種衛生管理者及び養護教諭二種免許を取得できます。

## 2 教育体系図

### (1) 看護学部看護学科【2023年度～2025年度入学生】

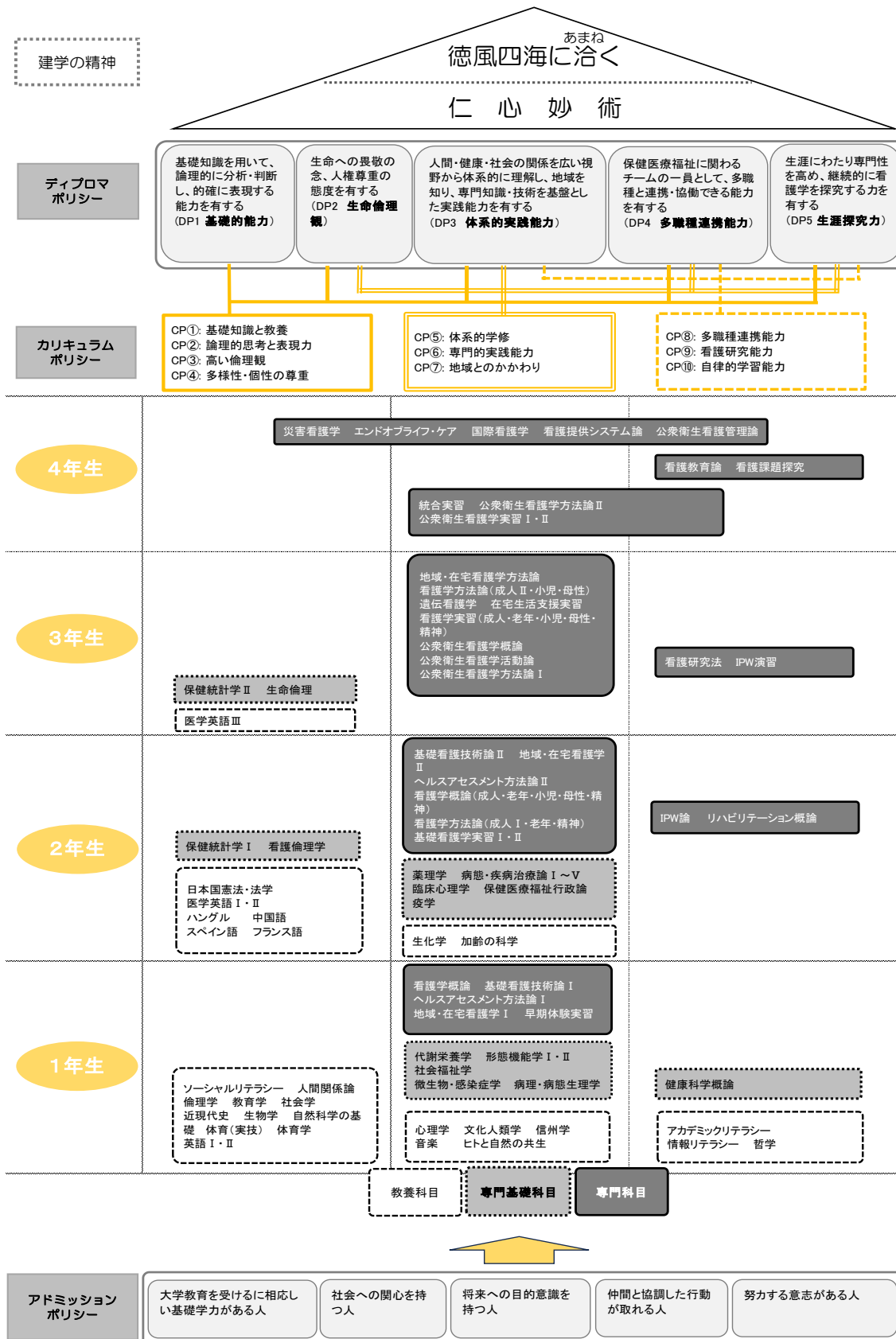


(別表) カリキュラムの構成

4年生	医学英語Ⅲ	遺伝学の基礎	看護教育論	看護課題探求Ⅱ 国際看護学	公衆衛生看護管理論	統合実習Ⅱ (地域包括ケア実習)
				統合実習Ⅰ・Ⅱ	公衆衛生看護学実習Ⅱ	
3年生	英語Ⅲ	病態・疾病治療論Ⅴ 生命倫理 保健統計学Ⅱ リハビリテーション概論	在宅生活支援実習	看護課題探求Ⅰ 看護提供システム論 災害看護学 看護の専門と発展 エンドオブライフ・ケア	公衆衛生看護学実習Ⅰ	
			地域・在宅看護学方法論	成人/老年/小児/母性/精神/看護学実習	公衆衛生看護学方法論Ⅱ	
2年生	医学英語Ⅰ 医学英語Ⅱ 中国語 スペイン語 ハンガール 日本国憲法・法学 加齢の科学	薬理学 病態・疾病治療論Ⅰ 病態・疾病治療論Ⅱ 病態・疾病治療論Ⅲ 病態・疾病治療論Ⅳ 保健統計学Ⅰ 疫学 保健医療福祉行政論 臨床心理学	基礎看護学実習Ⅱ	看護研究法 成人看護学方法論Ⅱ 小児看護学方法論 母性看護学方法論	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	リハビリテーション概論
			ヘルスアセスメント方法論Ⅱ 基礎看護技術論Ⅱ	成人看護学方法論Ⅰ 老年看護学方法論 精神看護学方法論 小児看護学概論 母性看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 精神看護学概論	公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学概論	IPW方法論
1年生	大学基礎セミナーⅠ 大学基礎セミナーⅡ(国語) 大学基礎セミナーⅢ(情報) 人間関係論 倫理学 心理学 文化人類学 哲学 社会学 自然科学の基礎 ヒトと自然の共生 体育学 体育実技 英語Ⅰ(読む・書く) 英語Ⅱ(聞く・話す) 信州学 音楽 教育学	代謝栄養学 形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 病理・病態生理学 微生物・感染症学 健康科学概論	基礎看護学実習Ⅰ	地域・在宅看護学Ⅱ		IPW論
			ヘルスアセスメント方法論Ⅰ 基礎看護技術論Ⅰ 看護学概論	地域・在宅看護学Ⅰ		健康科学概論
			早期体験実習			早期体験実習
<p>教養科目</p>		<p>専門基礎科目</p>		<p>専門科目</p>		

※ IPW (Interprofessional Work) (専門職連携)

## (2) 看護学部看護学科【2026年度以降入学生】



# 履修について

# 1 授業

## (1) 学年

学年は、4月1日に始まり翌年3月31日までです。

## (2) 学期

学年を半期毎、前期と後期に区分します。

前期：4月1日から9月第3週まで

後期：9月第4週から翌年3月31日まで

## (3) 単位

授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ授業の教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。

ア 講義及び演習については、15時間から45時間の授業をもって1単位とします。

イ 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とします。

また、1単位の学修に必要な45時間には、実際の授業における学修時間と授業外学修時間の両方が含まれており、単位を修得するためには、単位数に応じて必要な授業外学修を行わなければならない。

※1単位の学修時間（授業+授業外学修時間）

授業の形態	授業時間	授業外学修時間	計
講義及び演習	15時間から45時間	30時間から0時間	45時間
実験・実習・実技	30時間から45時間	15時間から0時間	45時間

## (4) 授業時間

授業時間は原則として次の通りです。授業科目によって別に指定することがあります。

時限	授業時間帯	時間
第1時限	9:00 ~ 10:30	90分
第2時限	10:40 ~ 12:10	90分
昼休み	12:10 ~ 13:00	50分
第3時限	13:00 ~ 14:30	90分
第4時限	14:40 ~ 16:10	90分
第5時限	16:20 ~ 17:50	90分

※ 土曜日、日曜日、祝日に授業を行う場合があります。

## (5) 授業科目の種類

### ア 科目区分

本学の授業科目は、教養科目、専門基礎科目、専門科目に分けられます。

### イ 必修・選択科目

各授業科目は、必修科目、選択科目から構成されます。

必修科目：卒業のために必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目：定められた条件内で選択できる科目

## (6) 出席・欠席・遅刻・早退・欠課

- ・ 各科目の出欠(欠課)確認は、科目の担当教員が行います。公欠・欠席・遅刻以外の連絡については、事務室では取り扱いません。
- ・ 授業開始から30分以内に入室したものを「遅刻」として扱います。
- ・ 授業開始後60分以上経過したのちに退室したものを「早退」として扱います。
- ・ 遅刻及び早退は2回をもってその科目の1授業時間の欠課として扱います。
- ・ 30分以上の遅刻、早退は1授業時間の欠課として扱います。

## (7) 休講・補講・集中講義

ア 休講：荒天や災害発生時(第4「学生生活に関する事項」5災害等への対応参照)及び、担当教員が都合により授業ができなくなった場合は、休講とします。

イ 補講：休講となった授業又は時間数が不足している授業等を補うために補講を行います。

ウ 集中講義：授業科目により、ある一定期間に集中して講義を行うことがあります。

## 2 履修登録

### (1) 履修登録とは

卒業するためには、学則に定められた所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります。さらに、授業を受けるためには履修登録が必要です。指定された期日までに履修登録を行わなかった場合は、たとえ授業に出席していても、その科目の単位は修得できませんので十分注意してください。

### (2) 履修登録の流れ

#### ア オリエンテーション

学生便覧から履修に関する部分とシラバス、時間割を説明します。

#### イ 時間割表の作成

オリエンテーション時に配布された資料をもとに、時間割表を作成してください。

#### ウ 履修登録

学生用情報システム(Active Academy)から履修登録を行います。必修科目はすでに登録されているので、選択科目の履修登録を行ってください。

#### エ 履修登録内容の修正・確認

学生用情報システム(Active Academy)から時間割表が正しく登録されているか確認してください。

オ 登録締切(前期・後期科目共に)：2026年4月10日(金)17:00まで

カ 履修登録修正期間：2026年4月13日(月)～2026年4月14日(火)17:00まで

キ 履修登録確認期間

前期：2026年4月13日（月）～2026年4月14日（火）17：00まで

後期：2026年9月24日（木）～2026年9月30日（水）17：00まで

(3)-1 履修にあたり修得が必要な科目（看護学部看護学科）

【2023年度～2025年度入学生】

ア 「教養科目」・「専門基礎科目」・「専門科目」については以下の通りです。

科目	修得が必要な科目
医学英語Ⅱ	英語Ⅰ（読む・書く）、英語Ⅱ（聞く・話す）、医学英語Ⅰ
医学英語Ⅲ	医学英語Ⅱ
病態・疾病治療論Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ/Ⅴ	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ
保健統計学Ⅱ	保健統計学Ⅰ
看護課題探求Ⅰ	看護研究法

イ 「専門科目」については、それまでに開講される「専門基礎科目」（P.142-P.143履修課程表参照）の必修科目の単位をすべて修得していなければ、履修することはできません。

ウ 「専門科目」の『臨地実習』については、イの条件に加え、各分野の講義・演習の単位、それまでに行われる実習の単位を修得する必要があります。科目名について、以下を参照してください。

科目	修得が必要な科目
基礎看護学実習Ⅰ	2年前期までに開講される「専門基礎科目」の必修科目及び 看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ、基礎看護技術論Ⅱ、ヘルスアセスメント方法論Ⅰ、早期体験実習
基礎看護学実習Ⅱ	2年後期までに開講される「専門基礎科目」の必修科目及び ヘルスアセスメント方法論Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ
在宅生活支援実習	地域・在宅看護学Ⅰ、地域・在宅看護学Ⅱ、地域・在宅看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
成人看護学実習	成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ、基礎看護学実習Ⅱ
老年看護学実習	老年看護学概論、老年看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
小児看護学実習	小児看護学概論、小児看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
母性看護学実習	母性看護学概論、母性看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
精神看護学実習	精神看護学概論、精神看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
統合実習Ⅰ（管理実習） 統合実習Ⅱ（地域包括ケア実習）	在宅生活支援実習、成人看護学実習、老年看護学実習、 小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習
公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論、公衆衛生看護学方法論Ⅰ、公衆衛生看護学方法論Ⅱ、在宅生活支援実習、成人看護学実習、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習

【2026 年度以降入学生】

ア 「教養科目」・「専門基礎科目」・「専門科目」については以下の通りです。

科目	修得が必要な科目
医学英語Ⅰ	英語Ⅰ、英語Ⅱ
医学英語Ⅱ	医学英語Ⅰ
医学英語Ⅲ	医学英語Ⅱ
病態・疾病治療論Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ/Ⅴ	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ
保健統計学Ⅱ	保健統計学Ⅰ
看護課題探求	看護研究法

イ 「専門科目」については、それまでに開講される「専門基礎科目」(P. 140-P. 141 履修課程表参照)の必修科目の単位をすべて修得していなければ、履修することはできません。

ウ 「専門科目」の『臨地実習』については、イの条件に加え、各分野の講義・演習の単位、それまでに行われる実習の単位を修得する必要があります。科目名について、以下を参照してください。

科目	修得が必要な科目
基礎看護学実習Ⅰ	2年前期までに開講される「専門基礎科目」の必修科目及び 看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ、基礎看護技術論Ⅱ、ヘル スアセスメント方法論Ⅰ、早期体験実習
基礎看護学実習Ⅱ	2年後期までに開講される「専門基礎科目」の必修科目及 び ヘルスアセスメント方法論Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ
在宅生活支援実習	地域・在宅看護学Ⅰ、地域・在宅看護学Ⅱ、地域・在宅看 護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
成人看護学実習	成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論 Ⅱ、基礎看護学実習Ⅱ
老年看護学実習	老年看護学概論、老年看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
小児看護学実習	小児看護学概論、小児看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
母性看護学実習	母性看護学概論、母性看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
精神看護学実習	精神看護学概論、精神看護学方法論、基礎看護学実習Ⅱ
統合実習	在宅生活支援実習、成人看護学実習、老年看護学実習、 小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習
公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論、公衆衛生看 護学方法論Ⅰ、公衆衛生看護学方法論Ⅱ、在宅生活支援実 習、成人看護学実習、老年看護学実習、小児看護学実習、 母性看護学実習、精神看護学実習

#### (4) 履修の注意事項

履修登録に当たっては履修課程表を参考に履修基準に沿って登録してください。

ア 1年間の必修科目・選択科目を登録してください。

イ 履修年次が指定されている科目は、その年次において履修してください。

ウ 原則としてⅠ・Ⅱ・Ⅲ等のついた科目は、数字の順番に履修してください。

エ 教養科目、「中国語」、「スペイン語」、「ハンゲル」、「フランス語」は他学部との共通科目であることから、開講人数の制限により履修登録をしても受講できない場合があります。その場合、履修登録の変更をお願いすることがあります。また、その他の科目についても、最低限必要とする開講人数に達しない場合も同様です。

オ 同一時間帯に開講される2つ以上の科目を同時に履修することはできません。

カ 履修登録した科目は確実に履修し、試験を受けなければなりません。登録しただけで受講せずに終わると総合評価(GPA)が下がります。履修を取り消す場合は履修登録修正期間に申請してください。

キ 通年の授業科目については、後期の履修登録確認期間中でも、変更できません。

ク 既に履修した科目は、再度履修することはできません。ただし、科目責任者の許可を得た場合は聴講することができます。

ケ 単位取得できなかった科目は、翌年度以降必ず履修登録（再履修登録）を行ってください。

コ 保健科学部の年間履修単位数の上限は、46単位とします。看護学部の年間履修単位数の上限は、48単位とします。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については上限を超えて履修科目を登録することを認める場合があります。

#### (5) 聴講について

聴講とは、本学で開講している授業を、履修登録を行わずに授業を受けることです。

聴講科目の成績評価及び単位認定は行いません。

聴講を希望する場合は以下の要件を確認し、申請してください。

ア 聴講を申請できる学生は、本学に在籍する学生とします。

イ 聴講を希望する学生は、下記の手続により科目責任者の許可を得てください。

なお、聴講は学期及び学年ごとの許可となります。

① 聴講を希望する学生は、担任又はチューターに相談してください。

② 学務部から「聴講申請書」を受け取り、“履修登録確認期間終了”までに科目責任者から許可を得てください。

③ 科目責任者から許可を得た後、学務部に「聴講申請書」を提出してください。

ウ 聴講を許可された学生（以下「聴講生」という。）は、以下の各号を遵守し、授業の進行を妨げないようにしてください。

① 欠席は最小限にしてください。

② 聴講生は、座席を確保する際に正規履修生を優先してください。

③ 授業中の発言や質問は、担当教員の指示に従ってください。

④ グループワークや課題提出は原則として免除されますが、担当教員の判断により参加を求められることもあります。

エ 聴講生に対して、成績評価及び単位認定は行いません。ただし、担当教員の判断により、学修の到達状況を確認する目的で“課題”や“確認テスト”等が実施されることがあります。

### 3 他学科の授業科目の履修

他学科の授業科目の履修または聴講については、希望の科目について、担当教員の許可を得て履修登録することができます。

ただし、演習科目、実習科目、履修人数の制限等、何らかの不都合が生じる科目については履修または聴講することができません。事前に担当教員の許可を得てから学務部に申請してください。

申請されたのち、学長の承認を得られた場合のみ履修が可能となります。

### 4 他大学等の既修得単位の認定

本学入学前に大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位を本学の単位として認定する場合があります。既修得単位の認定を希望する場合には、以下により申請してください。

#### (1) 申請書類

ア 既修得単位認定申請書

イ 成績証明書

ウ 当該科目の内容が分かるもの（シラバス・講義概要）

#### (2) 申請締切：2026年4月10日（金）17時まで

#### (3) 書類の請求及び提出先

学務部（本館事務室）

#### (4) 認定の通知

4月中に本人に認定通知書を交付します。

#### (5) その他

ア 既修得単位の認定は学則により最大60単位までです。

イ 申請した単位が認定されるとは限らないため、不認定になった場合を考慮して履修登録を行ってください。

ウ 認定の申請は入学時のみです。また期日を過ぎて申請することはできません。

## 5 卒業要件

### (1) 看護学部看護学科

看護学科の卒業に必要な履修科目の単位数は、次の表のとおりです。

#### 【2023～2025 年度入学生】

区 分		教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
看護師課程	必修科目	17 単位	23 単位	72 単位	112 単位
	選択科目	8 単位以上	2 単位以上	4 単位以上	14 単位以上
合 計		25 単位以上	25 単位以上	76 単位以上	126 単位以上

区 分		教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
保健師課程	必修科目	19 単位	26 単位	87 単位	132 単位
	選択科目	6 単位以上	—	4 単位以上	10 単位以上
合 計		25 単位以上	26 単位	91 単位以上	142 単位以上

#### ア 教養科目：

- ① 「中国語」、「スペイン語」、「ハングル」のうち1科目（2単位）を選択してください。
- ② 人文科学の「心理学」、「文化人類学」、「哲学」、「信州学」、「音楽」のうち3単位以上を選択してください。
- ③ 社会科学の「社会学」、「教育学」、「日本国憲法・法学」のうち2単位以上を選択してください。
- ④ 自然科学の「ヒトと自然の共生」、「加齢の科学」のうち1単位以上を選択してください。

イ 専門基礎科目：「臨床心理学」、「疫学」、「保健統計学Ⅱ」、「リハビリテーション概論」、「遺伝学の基礎」のうち2単位以上を選択してください。

ウ 専門科目：「国際看護学」、「エンドオブライフ・ケア」、「看護課題探求Ⅱ」のうち4単位を選択してください。

エ 保健師国家試験受験資格取得のためには看護師課程必修科目（必修・選択必修）を履修・単位修得する他に公衆衛生看護学科目の全科目を修得し、卒業要件単位として合わせて142単位以上を取得してください。なお、教養科目：「日本国憲法・法学」（2単位）及び専門基礎科目：「保健統計学Ⅱ」（1単位）、「疫学」（2単位）計5単位を必ず選択してください。

#### ※保健師課程必修科目

- 1年：「大学基礎セミナーⅢ（情報）」、「健康科学概論」、「地域・在宅看護学Ⅰ」  
 2年：「保健医療福祉行政論」、「保健統計学Ⅰ」、「疫学」、「地域・在宅看護学Ⅱ」

3年：「保健統計学Ⅱ」、「地域・在宅看護学方法論」

4年：「看護提供システム論」、「災害看護学」

オ 保健師免許状取得後の養護教諭二種免許状取得のための科目履修

保健師助産師看護師法第7条の規定により、保健師の免許状を受けた者が、養護教諭二種免許状を取得する場合、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目である、日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、数理、データの活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作の単位を修得している必要があります。

日本国憲法に対応する科目は「日本国憲法・法学」2単位(2年次)、体育に対応する科目は「体育(実技)」1単位(1年次)及び「体育学」1単位(1年次)、外国語コミュニケーションに対応する科目は「英語Ⅰ(読む・書く)」1単位(1年次)及び「英語Ⅱ(聞く・話す)」1単位(1年次)、数理、データ活用及び人口知能に関する科目又は情報機器の操作に対応する科目は「大学基礎セミナーⅢ(情報)2単位(1年次)」で、これらの科目は卒業に必要な単位となっています。

### 【2026年度以降入学生】

区 分		教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
看護師課程	必修科目	18 単位	23 単位	75 単位	116 単位
	選択科目	10 単位以上	2 単位以上	4 単位以上	16 単位以上
合 計		28 単位以上	25 単位以上	79 単位以上	132 単位以上

区 分		教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
保健師課程	必修科目	20 単位	26 単位	90 単位	136 単位
	選択科目	8 単位以上	—	4 単位以上	12 単位以上
合 計		28 単位以上	26 単位以上	94 単位以上	148 単位以上

ア 教養科目：

- ① 「中国語」、「スペイン語」、「ハングル」、「フランス語」のうち1科目(2単位)を選択してください。
- ② 人文科学の「文化人類学」、「哲学」、「信州学」、「音楽」、「倫理学」のうち3単位以上を選択してください。
- ③ 社会科学の「社会学」、「教育学」、「日本国憲法・法学」、「近現代史」のうち4単位以上を選択してください。
- ④ 自然科学の「ヒトと自然の共生」、「生物学」、「生化学」、「加齢の科学」のうち1単位以上を選択してください。

イ 専門基礎科目：「臨床心理学」、「疫学」、「保健統計学Ⅱ」、「生命倫理」のうち2単位以上を選択してください。

ウ 専門科目：「看護教育論」、「遺伝看護学」、「国際看護学」、「エンドオブライフ・ケア」のうち4単位以上を選択してください。

エ 保健師国家試験受験資格取得のためには看護師課程必修科目（必修・選択必修）を履修・単位修得する他に公衆衛生看護学科目の全科目を修得し、卒業要件単位として合わせて148単位以上を取得してください。なお、教養科目：「日本国憲法・法学」（2単位）及び専門基礎科目：「保健統計学Ⅱ」（1単位）、「疫学」（2単位）計5単位を必ず選択してください。

※保健師課程必修科目

1年：「情報リテラシー」、「健康科学概論」、「地域・在宅看護学Ⅰ」

2年：「保健医療福祉行政論」、「保健統計学Ⅰ」、「疫学」、「地域・在宅看護学Ⅱ」

3年：「保健統計学Ⅱ」、「地域・在宅看護学方法論」

4年：「看護提供システム論」、「災害看護学」

オ 保健師免許状取得後の養護教諭二種免許状取得のための科目履修

保健師助産師看護師法第7条の規定により、保健師の免許状を受けた者が、養護教諭二種免許状を取得する場合、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目である、日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、数理、データの活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作の単位を修得している必要があります。

日本国憲法に対応する科目は「日本国憲法・法学」2単位（2年次）、体育に対応する科目は、「体育（実技）」1単位（1年次）及び「体育学」1単位（1年次）、外国語コミュニケーションに対応する科目は「英語Ⅰ」1単位（1年次）及び「英語Ⅱ」1単位（1年次）、数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作に対応する科目は「情報リテラシー」2単位（1年次）で、これらの科目は卒業に必要な単位となっています。

## 6 試験

### (1) 定期試験

科目ごとに定期試験を実施し成績評価を行います。定期試験（成績評価方法）はシラバスに記載された内容（筆記試験、実技試験、論文又はレポート提出、課題提出ほか）で実施されます。

学期末ごとに定期試験が実施されますが、担当責任者が必要と認めるときは、別に試験を行うことがあります。

授業の出席時間数が、授業の総時間数の3分の2未満の場合は定期試験（試験に代わる論文及びレポートを含む）の受験資格がありません。

ア 試験場は時間割表で確認し、指定された試験場で受験してください。座席は、試験場の扉に掲示してある座席表を確認し着席してください。

イ 学生証を机の上に提示してください。学生証を忘れた場合は、本館または南館の事務室で、仮学生証（発行日の記載受験科目のみ有効）を申請してください。

ウ 机の上に置けるのは、筆記用具（筆箱を除く）と学生証のみです。許可を得たもの以外は机の上に置かないでください。

エ バッグはロッカーに入れてください。

オ 試験場へのスマートフォン・スマートウォッチ・ワイヤレスイヤホン等、通信機能のある機器・ウェアラブル機器の持ち込みを禁止します。携帯電話等が確認された時点で不正行為と見なされます。

カ 試験開始より30分以上遅刻した場合はその科目の受験はできません。

キ 試験開始後 30 分を経過するまでは試験場より退出することはできません。

ク 不正行為が行われたと認めた場合には、本学学則第 48 条に定める懲戒処分の対象とすることがあります。

ケ 試験に関しては、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為と見なされます。

コ 特別な事情により、試験場への持ち込み・着用の必要がある者は、その旨を事前に試験監督者に申し出てください。

## (2) 再試験

ア 定期試験により、成績が 60 点未満であった者に対しては、担当教員が必要と認める場合、再試験を行うことがあります。

イ 再試験を受験する場合は、所定の期日までに受験料（再試験 1 科目 2,000 円）を添え、本館事務室に申し込んでください。

ウ 再試験受験のために授業を欠席する場合は、公欠扱いとします。

エ 再試験の実施方法は、上記(1)（定期試験）に準じて行います。机上に領収証を提示してください。

注) 再試験に係る申請手続きについては、第 3、「5 就学中の各種届出・証明一覧」を参照してください。

## (3) 追試験

ア 学生がやむを得ない理由により定期試験を受験できなかった場合は、追試験を受けることができます。

イ 追試験を受験する場合は、所定の期日までに受験料（追試験 1 科目 1,000 円）を添え、本館事務室に申し込んでください。

ウ 正当な理由がなく定期試験を欠席した者は、その年度の当該科目の追試験を受けることができません。

エ 追試験を認める正当な理由とは、次のとおりです。

① 病気及び負傷（診断書の提出）

② 公欠（第 3 の 4 の(2)に定める公欠）

③ その他やむを得ないと認められる場合（理由を証明する書類の提出）

なお、上記①～②に該当する場合は受験料を納入する必要がありません。

オ 追試験受験のために授業を欠席する場合は、公欠扱いとします。

カ 追試験の実施方法は、上記(1)（定期試験）に準じて行います。机上に領収証を提示してください。

注) 追試験に係る申請手続きについては、第 3、「5 就学中の各種届出・証明一覧」を参照してください。

## 7 実習(保健科学部：臨床実習、看護学部：臨地実習)の単位

- ・ 実習においては、出席日数が実習総日数の5分の4未満の場合は、評価の資格を失います。
- ・ 実習については、原則として遅刻及び早退2回をもって1日の欠席として扱います。
- ・ 学部ごとの実習要項に沿って実習に臨んでください。

## 8 成績評価

### (1) 評価区分

成績の評価をS、A、B、C、D、としS、A、B、Cを合格、Dを不合格とします。

合格と認定された授業科目については、所定の単位が与えられます。

評価	評点	グレードポイント GP	単位認定
S	90点以上	4	合格
A	80点以上～90点未満	3	
B	70点以上～80点未満	2	
C	60点以上～70点未満	1	
D	60点未満	0	不合格
N	他大学等で履修した科目を本学の単位として認定したことを表す。	GPは付与しない	単位認定

注) 再試験で合格した場合の成績は、「C」とする。

### (2) 成績通知

成績は学生用情報システム(Active Academy)により通知します。なお、前期、後期とも保証人宛てに送付します。

### (3) 再履修

単位の修得が認められなかった授業科目は、次年度以降にその授業科目を再履修する必要があります。

### (4) GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度

学業成績を年次毎に総合評価のポイントで表します。各科目の成績は次のようにポイント化します。

総合評価ポイントは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = (\text{各科目のポイント (GP)} \times \text{各科目の単位数}) / (\text{履修登録の単位数})$$

GPA制度は、

- ① 学修状況の自己評価をする目安になります。
- ② 学修の成果がより明確になります。
- ③ 履修登録に責任をもつことを目的とします。

また、GPAをもとに履修登録の上限を設定する場合があります。

## (5) 成績評価確認制度

開示された自身の成績について、疑問等が生じた場合のために、本学では成績評価確認制度を導入しています。成績評価確認を行う場合は、自分が当該科目に臨んだ経過を十分吟味し、成績評価基準も理解した上で行ってください。確認は、科目担当教員に対して行い、疑問等が解決しない場合、教務委員会に対して行います。なお、以下のような理由による成績評価確認願は受け付けることはできません。

- ① 単に再評価・再検討を願い出るもの。
- ② 担当教員に情状酌量を求めるもの。(卒業や資格試験等に関わる、等)
- ③ 他の学生との対比上の不満を訴えるもの。  
(友人はB評価だが、なぜ自分はC評価になったのか等)
- ④ 評価に疑問がなく、その評価になった理由のみを問い合わせるもの。  
(担当教員又は科目責任者からの講評、解説が欲しい、試験等の点数の開示のみを求めるもの等)
- ⑤ 確認内容・確認理由について具体的な内容の記載がないもの。  
(納得できませんのみ等)

成績評価確認願は、用紙を事務室窓口で受取り、定期試験時に定められた提出期限までに提出してください。

## (6) 生成系 AI の取扱い

リフレクション・ペーパー、レポート、卒業研究等の課題への取り組みにおいて、Chat GPT等の生成系 AI が生成した文章、計算結果等は本人が作成したものではないため、使用を認めません。また、使用が確認された場合は、本学の「学生の懲戒等に関する規程」に基づき対処します。ただし、教員の許可があればその指示の範囲内で使うことは可とします。

## 9 高等教育コンソーシアム信州における他大学単位の扱い

長野県内大学単位互換協定に基づき、必要な手続きを行い、単位を取得することができます。他大学での履修可能科目数は、個別に学長が認めた範囲とし、原則として本学の卒業必要単位に算入しません。

## 10 学生による授業評価

本学では、より良い授業が行われるように、授業科目の内容及び方法について、学生による授業評価を授業科目の最終講義で実施しています。

これは学生自身の取り組みの振り返り及び授業の質を高めるために行うもので、個々の教員の人気投票ではありません。皆さんの真剣な評価を期待します。皆さんの成績に影響を与えることはありません。

学生の皆さんからのフィードバックによって良い授業を作るという趣旨を理解いただき、協力をお願いします。

# 履修課程表

看護学科 履修課程表

注) ●必修科目 ○選択科目 ◎保健師必修科目

【2026年度以降入学生】

科目	区分	科目名称	開講学部	配当	コマ数	単位		看護学科				履修方法		
						必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次			
教養科目	大学基礎セミナー	ソーシャルリテラシー	全学	1前	15	2		●					看護師課程 28単位以上 (必修18単位、選択10単位以上)	
		アカデミックリテラシー	全学	1前	15	2		●						
		情報リテラシー	全学	1前	15	2		●						
	人文科学	人間関係論	看護	1前	15	2		●						保健師課程 28単位以上 (必修20単位、選択8単位以上)
		心理学	全学	1前	15	2		●						
		倫理学	全学	1前	8		1	○						
		文化人類学	全学	1前	15		2	○						
		哲学	全学	1前	8		1	○						
		信州学	全学	1後	15		2	○						
		音楽	全学	1後	8		1	○						
	社会科学	社会学	全学	1前	15		2	○					<社会科学>の「社会学」、「教育学」、 「日本国憲法・法学」、「近現代史」のう ち4単位以上選択。ただし、保健師課程は 「日本国憲法・法学」は必修科目	
		教育学	全学	1後	15		2	○						
		日本国憲法・法学	全学	2前	15		2			○◎				
		近現代史	全学	1前	15		2	○						
	自然科学	自然科学の基礎	全学	1前	15	2		●					<自然科学>の「ヒトと自然の共生」、 「生物学」、「生化学」、「加齢の科学」 のうち1単位以上選択	
		ヒトと自然の共生	全学	1前	15		2	○						
		加齢の科学	全学	2前	8		1			○				
		生物学	全学	1後	15		2	○						
		生化学	全学	2前	15		2			○				
	体育学	体育(実技)	看護	1前	15	1		●						
		体育学	看護	1後	15	1		●						
	外国語	英語Ⅰ	看護	1前	15	1		●						
		英語Ⅱ	看護	1後	15	1		●						
		医学英語Ⅰ	看護	2前	15	1				●				
		医学英語Ⅱ	看護	2後	15	1				●				
		医学英語Ⅲ	全学	3前	15		1				○			
		中国語	全学	2後	15		2			○			<外国語>の「中国語」、「スペイン語」、 「ハンガール」、「フランス語」のうち1科 目(2単位)選択	
スペイン語		全学	2後	15		2			○					
ハンガール		全学	2後	15		2			○					
フランス語		全学	2後	15		2			○					
専門基礎科目	人体の構造と機能	代謝栄養学	看護	1後	15	2		●				看護師課程 25単位以上 (必修23単位、選択2単位以上)		
		形態機能学Ⅰ	看護	1前	30	2		●						
		形態機能学Ⅱ	看護	1後	30	2		●						
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物・感染症学	看護	1後	15	2		●				保健師課程 26単位以上 (必修26単位)		
		薬理学	看護	2前	15	2				●				
		病理・病態生理学	看護	1後	15	2		●						
		病態・疾病治療論Ⅰ	看護	2前	15	1				●				
		病態・疾病治療論Ⅱ	看護	2前	15	1				●				
		病態・疾病治療論Ⅲ	看護	2後	15	1				●				
		病態・疾病治療論Ⅳ	看護	2後	15	1				●				
	病態・疾病治療論Ⅴ	看護	2後	15	1				●					
	健康科学と社会保障制度	看護倫理学	看護	2前	8	1				●			<健康科学と社会保障制度>の「臨床心 理学」、「保健統計学Ⅱ」、「疫学」、「生命倫 理」のうち2単位以上選択。ただし、保 健師課程は「保健統計学Ⅱ」、「疫学」は必 修科目	
		臨床心理学	看護	2後	15		2			○				
		生命倫理	全学	3前	8		1				○			
		社会福祉学	全学	1後	15	2		●						
		保健医療福祉行政論	看護	2後	15	2				●				
		保健統計学Ⅰ	看護	2後	8	1				●				
		保健統計学Ⅱ	看護	3前	8		1				○◎			
		疫学	看護	2前	15		2			○◎				

科目	区分	科目名称	開講学部	配当	コマ数	単位		看護学科				履修方法
						必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	
専門科目	基礎看護学	看護学概論	看護	1前	15	2		●				看護師課程 79単位以上 (必修75単位、選択4単位以上)  保健師課程 94単位以上 (必修90単位、選択4単位以上)
		基礎看護技術論Ⅰ	看護	1後	45	3		●				
		基礎看護技術論Ⅱ	看護	2前	45	3			●			
		ヘルスアセスメント方法論Ⅰ	看護	1後	15	1		●				
		ヘルスアセスメント方法論Ⅱ	看護	2前	15	1			●			
		看護提供システム論	看護	4前	15	2					●	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護学Ⅰ	看護	1後	15	2		●				
		地域・在宅看護学Ⅱ	看護	2前	15	2			●			
		地域・在宅看護学方法論	看護	3前	30	2				●		
	成人看護学	成人看護学概論	看護	2前	15	2			●			
		成人看護学方法論Ⅰ	看護	2後	30	2			●			
		成人看護学方法論Ⅱ	看護	3前	30	2				●		
	老年看護学	老年看護学概論	看護	2前	15	2			●			
		老年看護学方法論	看護	2後	30	2			●			
	小児看護学	小児看護学概論	看護	2後	15	2			●			
		小児看護学方法論	看護	3前	30	2				●		
	母性看護学	母性看護学概論	看護	2後	15	2			●			
		母性看護学方法論	看護	3前	30	2				●		
	精神看護学	精神看護学概論	看護	2前	15	2			●			
		精神看護学方法論	看護	2後	30	2			●			
	看護の統合と実践	看護研究法	看護	3前	15	2					●	
		災害看護学	看護	4前	30	2					●	
		看護教育論	看護	4後	8		1				○	
		遺伝看護学	看護	3前	8		1			○		
		看護課題探求	看護	4通	45	3					●	
		エンドオブライフ・ケア	看護	4前	15		2				○	
		国際看護学	看護	4後	15		2				○	
	臨地実習	早期体験実習	看護	1前		1		●				
		基礎看護学実習Ⅰ	看護	2前		1			●			
		基礎看護学実習Ⅱ	看護	2後		2			●			
		在宅生活支援実習	看護	3後		2				●		
		成人看護学実習	看護	3後		4				●		
		老年看護学実習	看護	3後		4				●		
		小児看護学実習	看護	3後		2				●		
		母性看護学実習	看護	3後		2				●		
		精神看護学実習	看護	3後		2				●		
		統合実習	看護	4前		3					●	
	公衆衛生看護学関連科目	公衆衛生看護学概論	看護	3前	15		2			○◎		
		公衆衛生看護学活動論	看護	3前	15		2			○◎		
		公衆衛生看護学方法論Ⅰ	看護	3後	30		2			○◎		
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ	看護	4前	30		2				○◎	
		公衆衛生看護管理論	看護	4後	15		2				○◎	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ※	看護	4前			3				◎	
	IPE関連科目	健康科学概論	全学	1後	15	2		●				
		IPW論	全学	2後	8	1			●			
		リハビリテーション概論	看護	2後	8	1			●			
		IPW演習	全学	3前	8	1				●		

※は保健師課程のみ履修可能

看護師課程：合計132単位（必修116単位、選択16単位以上）以上を取得すること。

保健師課程：合計148単位（必修136単位、選択12単位以上）以上を取得すること。

看護学科の年間履修単位数の上限は、48単位とします。

<看護の統合と実践>の「看護教育論」、「遺伝看護学」、「エンドオブライフ・ケア」、「国際看護学」のうち4単位以上選択

看護学科 履修課程表

注) ●必修科目 ○選択科目 ◎保健師必修科目

【2023年度～2025年度入学生】

科目	区分	科目名称	開講学部	配当	単位		看護学科				履修方法	
					必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次		
教養科目	導入科目	大学基礎セミナーⅠ	看護	1前	2		●					看護師課程 25単位以上 (必修17単位、選択8単位以上)  保健師課程 25単位以上 (必修19単位、選択6単位以上)  <人文学>の「心理学」、「文化人類学」、 「哲学」、「信州学」、「音楽」のうち 3単位以上選択  <社会科学>の「社会学」、「教育学」、 「日本国憲法・法学」のうち2単位以上 選択。ただし、保健師課程は「日本国 憲法・法学」は必修科目  <自然科学>の「ヒトと自然の共生」、 「加齢の科学」のうち1単位以上選択  <外国語>の「中国語」、「スペイン語」、 「ハングル」のうち1科目(2単位)選択
	人文学	大学基礎セミナーⅡ(国語)	看護	1前	2		●					
		人間関係論	看護	1前	2		●					
		倫理学	看護	1前	1		●					
		心理学	全学	1前		2	○					
		文化人類学	全学	1前		2	○					
		哲学	看護	1前		1	○					
		信州学	全学	1後		1	○					
	社会科学	音楽	看護	1後		1	○					
		社会学	全学	1前		2	○					
		教育学	看護	1後		2	○					
	自然科学	日本国憲法・法学	全学	2前		2			○◎			
		大学基礎セミナーⅢ(情報)	看護	1前	2		●					
		自然科学の基礎	全学	1前	2		●					
		ヒトと自然の共生	看護	1前		2	○					
	体育学	加齢の科学	看護	2前		1		○				
		体育(実技)	看護	1前	1		●					
	外国語	体育学	看護	1後	1		●					
		英語Ⅰ(読む・書く)	看護	1前	1		●					
		英語Ⅱ(聞く・話す)	看護	1後	1		●					
		医学英語Ⅰ	看護	2前	1			●				
		医学英語Ⅱ	看護	2後	1			●				
		中国語	全学	2後		2		○				
スペイン語		全学	2後		2		○					
ハングル		全学	2後		2		○					
英語Ⅲ		全学	3前		1				○			
専門基礎科目	医学英語Ⅲ	看護	4前		1					○		
	人間と環境	代謝栄養学	看護	1後	2		●					
		形態機能学Ⅰ	看護	1前	2		●					
		形態機能学Ⅱ	看護	1後	2		●					
		病理・病態生理学	看護	1後	2		●					
		薬理学	看護	2前	2			●				
		病態・疾病治療Ⅰ	看護	2前	1			●				
		病態・疾病治療Ⅱ	看護	2前	1			●				
		病態・疾病治療Ⅲ	看護	2後	1			●				
		病態・疾病治療Ⅳ	看護	2後	1			●				
		病態・疾病治療Ⅴ	看護	3前	1					●		
	生命倫理	全学	3前	1					●			
	環境と健康	臨床心理学	看護	2後		2		○				
		微生物・感染症学	看護	1後	2		●					
		健康科学概論	全学	1後	2		●					
		保健医療福祉行政論	看護	2後	2			●				
保健統計学Ⅰ		看護	2後	1			●					
保健統計学Ⅱ		看護	3前		1				○◎			
疫学		看護	2前		2		○◎					
リハビリテーション概論	看護	3前		2				○				
遺伝学の基礎	看護	4前		1					○			
専門科目	基礎看護学	看護学概論	看護	1前	1		●				看護師課程 76単位以上 (必修72単位、選択4単位以上)  保健師課程 91単位以上 (必修87単位、選択4単位以上)	
		基礎看護技術Ⅰ*1	看護	1後	3		●					
		基礎看護技術Ⅱ	看護	2前	3			●				
		ヘルスアセスメント方法論Ⅰ	看護	1後	1		●					
		ヘルスアセスメント方法論Ⅱ	看護	2前	1			●				
		看護教育論	看護	4前	2							●

科目	区分	科目名称	開講学部	配当	単位		看護学科				履修方法
					必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	
専門科目	地域・在宅看護論	地域・在宅看護学Ⅰ	看護	1後	2		●				
		地域・在宅看護学Ⅱ	看護	2前	2			●			
		地域・在宅看護学方法論	看護	3前	2				●		
	成人看護学	成人看護学概論	看護	2前	2			●			
		成人看護学方法論Ⅰ	看護	2後	2			●			
		成人看護学方法論Ⅱ	看護	3前	2				●		
	老年看護学	老年看護学概論	看護	2前	2			●			
		老年看護学方法論	看護	2後	2			●			
	小児看護学	小児看護学概論	看護	2後	2			●			
		小児看護学方法論	看護	3前	2				●		
	母性看護学	母性看護学概論	看護	2後	2			●			
		母性看護学方法論	看護	3前	2				●		
	精神看護学	精神看護学概論	看護	2前	2			●			
		精神看護学方法論	看護	2後	2			●			
	看護の統合と実践	IPW論	全学	2後	1			●			
		IPW方法論	看護	3前	1				●		
		看護研究法	看護	3前	2				●		
		看護提供システム論	看護	4前	2					●	
		災害看護学	看護	4前	1						●
		看護の専門と発展	看護	4前	1						●
		看護課題探求Ⅰ	看護	4前	2						●
		看護課題探求Ⅱ	看護	4後		2					○
		エンドオブライフ・ケア	看護	4前		2					○
		国際看護学	看護	4後		2					○
	臨地実習	早期体験実習	看護	1前	1		●				
		基礎看護学実習Ⅰ	看護	2前	1			●			
		基礎看護学実習Ⅱ	看護	2後	2			●			
		在宅生活支援実習	看護	3後	2				●		
		成人看護学実習	看護	3後	4					●	
		老年看護学実習	看護	3後	4					●	
		小児看護学実習	看護	3後	2				●		
		母性看護学実習	看護	3後	2				●		
		精神看護学実習	看護	3後	2				●		
統合実習Ⅰ(管理実習)		看護	4前	1						●	
統合実習Ⅱ(地域包括ケア実習)		看護	4前	2						●	
公衆衛生看護学関連科目		公衆衛生看護学概論	看護	3前		2				○◎	
	公衆衛生看護学活動論	看護	3前		2				○◎		
	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	看護	3後		2				○◎		
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ	看護	4前		2					○◎	
	公衆衛生看護管理論	看護	4後		2					○◎	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ※	看護	4前		3					◎	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ※	看護	4前		2					◎	

<看護の統合と実践>の「看護課題探求Ⅱ」、「エンドオブライフ・ケア」、「国際看護学」のうち4単位以上選択

※は保健師課程のみ履修可能

看護師課程：合計126単位（必修112単位、選択14単位）以上を取得すること。

保健師課程：合計142単位（必修132単位、選択10単位）以上を取得すること。

看護学科の年間履修単位数の上限は、48単位とします。

\*1 2023年度入学生は「基礎看護技術論Ⅰ」を1年前期に履修済み。